

◎アンケートにご回答いただく上で、必要と思われる情報を、次のようにQ&A方式でまとめましたので、ご活用ください。

Q1 以前にも同じようなアンケートがあったようだけど、再度、アンケート調査を実施する必要があるの？

A1 市では、令和5年度に、第二次佐久市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の策定にあたり、市民アンケートを実施した経過があります。当該アンケートは、全市的なごみ処理の計画を策定するために、全市域にお住いの皆様から無作為抽出した 2,000 人で行い、841人から回答がありました。このアンケート中で、臼田地域の皆さん限定で、臼田地域の生ごみ分別について、お聞きしました。しかしながら、全市的なアンケートであったため、臼田地域では250人の配布に対して、回答も126人であったことから、この結果が十分に民意を反映しているとまでは言い切れないと判断いたしました。このようなことから、今回、臼田地域全ての皆さんの声を反映するため、アンケートを実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。

ちなみに、前回のアンケートでは、回答者の約7割の方が、「家庭からの生ごみの堆肥化を継続すべき」と回答がありました。

Q2 ごみ収集等にも経費がかかっていると思うけど、選択肢ごとの経費は、いくらかかる見込みなの？

A2 本アンケートの選択肢1の「現状どおり」では、収集運搬費(週に可燃ごみ1回・生ごみ2回)と生ごみ袋製造費が必要で、年間約 3,700 万円(令和 8 年度予算)の経費と見込んでいます。

選択肢2の「生ごみを可燃ごみに含め、可燃ごみの収集回数を週 2 回にする」では、収集運搬費(週に可燃ごみ2回)のみとなり、年間約 2,600 万円を経費として見込んでいます。

なお、両方とも、今後の物価高騰、人件費上昇による影響は見込んでいません。

Q3 生ごみの分別収集は現状どおりとしつつ、可燃ごみも週2回収集してもらうことが良いと思うが、そのような選択肢がないのはなぜ？

A3 A2の回答のとおり、「現状どおり」を維持するだけで、年間約 3,700 万円の経費がかかる見込みです。これは、他地域の可燃ごみ週 2 回の収集に比べ、年間約 1,100 万円経費増となっている状況です。現状から、さらに可燃ごみの収集回数を増やすと年間約 4,800 万円の経費がかかる見込みです。このような現状を踏まえ、予算の有効活用、他地域との公平性などの観点から、「生ごみ、可燃ごみの週 2 回収集」については、持続可能性が低いため、選択肢として記載しておりません。

Q4 家庭の生ごみの分別収集をやめた場合、佐久市堆肥製産センターはどうなるの？

A4 佐久市堆肥製産センターは、施設の老朽化という問題もありますが、旧臼田町が目指した資源循環型社会形成の拠点となる施設であるため、現在も家庭系生ごみだけでなく、事業系の生ごみも受け入れて堆肥を生産しています。このため、市では事業系生ごみの更なる確保に努め、センターで生産された堆肥を地元農業に活用できる仕組みは、可能な限り維持していきたいと考えております。

Q5 今回のアンケートで、地域住民の声により、分別収集の方法を変更することとなったら、いつから変更となるの？

A5 臼田地域の皆さんの声を尊重し、速やかに変更を行うことが重要と認識しております。しかしながら、現在の収集事業者との契約、収集事業者の体制整備、予算措置等の課題もあるため、これらの課題を整理し、可能な限り速やかに対応してまいります。